

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 三国丘小 学校
校長 安原 巧

中学校区におけるめざす子ども像 未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決を通じて社会を継続・発展させていくことができる「主体的に考え行動できる子ども」 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」子ども～

令和6年度 重点目標	
◎人材の育成 : ○J Tを通して(学校全体) ○学習規律の構築と、人権教育の推進(全学年) ○いじめや不登校の未然防止と、学びの機会の確保(全学年) ○健やかな体の育成と、子どもの安全確保(全学年)	
・『根拠をもって伝える力』の育成と、ICTの効果的な活用の研修(研修委員会) ・人権意識を高め、多様性を認め合える人間関係の形成(研修委員会) ・暴力やいじめを許さないという、人権意識や規範意識の醸成(生活指導委員会)	
・いじめ不登校対策委員会での、組織的な早期支援体制の実践(生活指導委員会) ・狭い運動場を効果的に活用した持続可能な体育・保健教育活動の実践(保体給委員会) ・安全教育・防災教育・食育指導の推進と、安全が担保される環境整備(保体給委員会)	
<p>「確かな学び」の現状</p> <p>令和5年度の「全国学力・学習状況調査」および大阪府の「すくすくわか」の結果からは、令和3年度以降5・6年において比較的安定した学力が定着していることが確認できた。しかし、一方で自分の言葉で思いや考えを伝えるという点では課題が見られる。そこで、今年度の研究主題を「自分の考えや思いを 根拠をもって伝え合うことができる子どもの育成～「伝え合う」授業をめざして～」とし公開授業を行い、実践を通して検証を進めていく。公開する場面は、主題に沿った提案が最も効果的に表れる授業場面で行う。このような取組を通して、より「確かな学び」の定着を図っていききたい。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <p>本校の学校教育目標は「学び合う子 助け合う子 たくましい子の育成」である。いじめと認められる事例もあることから、「相手の立場を思いやり、豊かな心や秩序を重んじる」「社会性を身につけるための規範意識の育成を進める」「いじめを許さないという人権意識の醸成」を中心に指導を行う。豊かな心の育成に必要な不可欠なのは、いじめや不登校の早期発見・早期解決である。指導の重点として①積極的な生徒指導と不登校対策委員会の積極的な活用、②不登校(傾向のある)子どもへの学びの機会を確保、③非行防止・犯罪被害防止教室など少年サポートセンターや警察署との連携、3点を掲げ実践していききたい。また道徳の授業力向上にも力を入れ、公開授業の機会を設定していく。</p>

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	ICT	ICTを活用した各学年で定められた情報活用能力の知識及び技能の習得	ICTを活用した学習展開の工夫をめざし、研修や授業研究に取り組む。	・「タブレットを活用した授業ができる」の肯定的評価80%以上…①	教員アンケート	12月	○	2学期に入り、研究授業が本格化し、「伝え合う」授業の実現を目指して工夫した授業が展開されている。その中で、タブレットを使った指導にも取り組んでいる。	◎ 判断基準①92% ②100% 1年生を含め全年生でタブレット活用に努めてきた。朝の学習や授業中にドリル学習、発表ノート、情報収集、まとめなど多様な活用に取り組んでいる。今後は発達段階を踏まえ、ICTのスキルについて系統性など学年毎の積み重ねを意識した取組を図りたい。	◎ 一人一台のタブレットに驚き。入力できることは感心。しかし字が書けなくなる心配もしている。電子機器に触れ、慣れていくことは大切。多様な子どもに合わせて指導できれば効果も期待できる。スマホとの違い、正しい使い方を情報教育と合わせて指導し、ツールとして学んでほしい。
			児童1人1台の活用推進のため、情報活用能力や情報モラルを育む授業を実施する。	各学年での目標について「できている」の肯定的評価80%以上…②	学校教育アンケート	12月	△	1年生への指導ができていないことが課題。2～6年生については、朝・授業中などで使用頻度を高めている。		
	人権教育	相手の立場にたって自ら考え、行動できる児童の育成	全学年で系統立てた道徳と人権の授業を行い、どの子も安心して学校に通えるように、相手を思いやる気持ちを涵養する。	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的評価85%以上…③	学校教育アンケート	12月	○	道徳の公開授業を通して、道徳授業の進め方についての職員研修が進められており、指導力向上が図られている。児童の心理解を課題として取り組む必要がある。	◎ 判断基準③91.7% オープンスクール等での道徳授業を通じた保護者啓発や道徳を公開授業とした教職員の実践研修も深まっている。交換授業も進めている。	◎ 学校で最も身につけてほしいことである。昔の道徳よりイメージが明るいと感じた。思いやりの心、優しさを育ててほしい。保護者の啓発、親教育も必要か。
	授業づくり	自分の考えや思いを根拠をもって伝えることができる児童の育成(小中一貫グラブデザインに基づく)	●★低・中・高学年ごとに定めた伝える力の目標をめざした授業研究に取り組む。	「児童が自分の考えを伝えられるように指導方法の工夫を行った」の肯定的評価80%以上…④	教員アンケート	12月	○	研究授業では各学年が「伝える力」の向上のために工夫をし、研究討議でもその成果と課題が共有されている。各学年1回以上の研究授業は成果を上げている。	◎ 判断基準④92% ⑤88.5% ⑥88.5% 各学年1回ずつ年間6回の研究授業を通して「伝え合う力」の育成に努めてきた。授業の中で「話し合い」の場を設け、「話し手」「聞き手」の両方へ働きかけ、話し合うことで考えが深まることや気づきがあることを指導してきた。今大切にしている「主体的、対話的で深い学び」の実現のためにも「共に学ぶ」姿勢の育成に努めることができている。	◎ 言葉で伝えるのは将来とても重要なスキルと考えられるので、しっかり学んでほしい。グループ活動は大切。集団での活動が苦手な子ほど育成に力を入れてほしい。授業でも先生の話が始まるシーンと聞いていた。先生の努力がわかった。話し合いや意見の言い合いも勉強。おとなしい子どもを巻き込み、興味深い話題を提供してほしい。「共に学ぶ」姿勢を育成してほしい。研究授業でも熱心な取組をとおられ、先生方の授業に対する態度も素直に感じる。
			★話し方・聞き方の型を用いて伝える力の基礎の定着を図る。	「クイズやグループ・ペアで話すときは、自分の考えを伝え、友だちの意見もしっかり聞いている」の肯定的評価80%以上…⑤	学校教育アンケート	12月	△	どの教科でも「グループ活動」「話し合いの場」を大切に学習の場を作ろうとしており、一定の成果はある。今後、定着させるために粘り強い働きかけが必要。		
			★学校生活全体を通じた「伝える場」を設定し、伝える習慣をつける。	「学校生活の中でクイズやグループ、ペアで話すことができた」の肯定的評価80%以上…⑥	学校教育アンケート	12月	○	グループ活動ではペア・同質グループ・異質グループでの話など工夫したグルーピングによる「伝え合う場」の設定がなされ伝える習慣づくりに取り組んでいる。		
豊かな心	豊かな心	一人ひとりを尊重し、温かい人間関係づくりができる児童の育成	いじめについての正しい知識をもたせ、生活のなかで活かせるようにさせる。	「いじめられている子を助けたいと思う」についての項目で肯定的評価80%以上…⑦	学校教育アンケート	12月	◎	いじめアンケートの結果を基にした迅速な聞き取りや個別対応が図られている。児童理解のため、担任、フリー、養護教諭など多くの立場の教職員の関わりが見られる。	◎ 判断基準⑦91.6% 学校の授業や生活の全ての場面を通じた指導で「いじめを許さない」という心構えは育っている。SNSなどに対する啓発は継続の必要あり。	○ 現状把握や SNS は課題。相手にどう伝わるか想像力を働かせ、自分はどうかとまず考えてほしい。わかると行動できるは違う。いじめがあるのを知りたい。
	規範意識	自分も他人も大切に、率先してあいさつができる児童の育成	●学校のきまりを職員全員が共通理解し、児童に発信することにより、規範意識の醸成を図る。 教師の率先垂範とあいさつ週間の充実により、あいさつの励行を進める。	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価80%以上…⑧ 「学校で先生や友だちに自分から進んであいさつをしている」の肯定的評価80%以上…⑨	学校教育アンケート	12月	○ ◎	生活指導として、朝礼や終業式といった周知の機会を活用して、「きまり」の必要性和守る意義を伝え、全教職員で規範意識の醸成を図っている。 登校時、下校時の玄関での送迎挨拶と学校ぐるみの挨拶啓発活動により、元気な挨拶の声が校内に響いており、特に低学年児童の模範的行動が好影響を生み出している。	◎ 判断基準⑧88.6% ⑨87.4% 「決まりだから」と無条件に守らせるのではなく、集団で過ごすために「守る必要がある」のがルールであると朝会等を通して指導し続けてきた。挨拶も「校長挨拶」「挨拶週間」「PTA挨拶運動」など多様な働きかけと熱心な取組の成果もあり、頻度/声の大きさなどに改善が見られる。	◎ 理由がわかれば行動に移しやすい。なぜ必要かを伝え続けていく。挨拶に関する運動は効果があると聞いている。上着として制服以外の服もよく見るがある程度のルールの指導を。交通指導していても笑顔で挨拶する子は元気で家庭教育の大切さを痛感している。継続した取組を。考えて行動し、話し合うことを大切にしてほしい。
健やかな体	健やかな体	健康な体づくりを主体的に考え、実践する子どもの育成	●栄養教諭と担任等が連携して食育を行い、食の大切さを知らせ、朝ごはんの定着と給食の残量減をめざす。 児童一人ひとりが個々の課題を知り、自ら実践する力を育成するために「おうち体育」を進める。	・学校教育アンケート(保護者)「あてはまる」90%以上…⑩ ・1学期より残量を減らす 「おうち体育を使って、体力づくりをしている」の項目での肯定的評価80%以上…⑪	・学校教育アンケート ・堺市残量調査	・1月 ・6月、11月	○ ○	給食時の給食カレンダーを活用した毎日の働きかけと食育だよりによる定期的な啓発活動による食育が着実に進められている。 授業での体力向上には限界があるが、本校の体力テスト結果の多くが堺平均より高くおうち体育の効果があると考えている。	△ 判断基準⑩88.9% ⑪77.2% 栄養教諭からの食育指導、毎日の給食時の指導など食に対する意識は高まっていると言える。体力向上に対する取組面では学年によってばらつきがあり、引き続きの働きかけが必要と考えている。	△ 各家庭での食育・体育の取組の差が気になる。体づくりは大事で遊びも学びであるとして保護者へ伝えていく必要がある。体力テストは習い事の効果が大きいか。多様性の取組も期待。狭い運動場を活用する工夫を。引き続きの対策を期待したい。

校長より(年度末) 児童数が1000人に迫ろうとする大規模校であり、児童や教職員とも統一感のある指導を行うためには働きかけを繰り返す必要を感じている。教職員の働き方改善と学校教育活動の充実を両立させるためには取組を吟味し児童・保護者・地域へより一層情報発信していく必要を感じている。学校変革期とも言える今、更に保護者・地域と連携を深めたい。

学校関係者評価者から(年度末) 課題も多く、難しい時代。それらに取り組む先生たちの努力はとても伝わってきた。とてもよくやってくださっている。多様な状況が考えられる中、すべてがOKになることは考えられない。大変とは思いますが、学校の取組や努力を伝え続け、これからも継続的な努力をお願いしたい。大人数の児童への学びを支えていただき感謝。一人ひとりを大切にしたい。声かけをお願いします。